

登山文化を守り、継承するため 全登研集会で語り合しましょう

全国登山研究集会（全登研集会）を10月29（土）～30（日）に東京で開催する。

全登研集会は、全国の仲間が登山活動のなかで、組織拡大、遭難対策、自然保護など具体的な活動経験を全国の仲間と交流し学びとる場として、登山の運動・組織を前進させる大きな原動力となってきた。

集会内容は、最初に新理事長川嶋高志からの「基調報告」を行う。これは、今年の2月の総会で登山の役員体制が新しくなった。新理事長から、全国登山は2020年以降のコロナ禍でどのように登山活動に向き合ってきたのか。また、これからの登山界はどの

ように変わっていくのか、について報告することになっている。

記念講演は、三俣山荘の支配人伊藤圭氏に、「山と人と街プロジェクト」（仮題）―伊藤新道の復活、三俣山荘図書室、山小屋の未来―について話していただく。伊藤圭氏は登山創設者伊藤正一氏の御子息で、古い登山会員なら伊藤正一氏の山小屋、三俣山荘経営を支援する「雲上の集い」に参加された方も多いのではないだろうか。伊藤圭さんは厳しい自然の中で通行不能になっっている「伊藤新道」の復活にも取り組んでいて、この秋には歴史ある登山道が復活する予定とのこと。貴重な話

を聞くことができる機会となる。

分科会は講演を生かす形で、4分科会とし、運営面も①「山小屋の諸問題」はハイキング委員会、②「登山道と遭難対策」は遭難対策部、③「岩場のマナーとアクセス」は青年学生委員会、④「魅惑のトレイル、その楽しみ方」は実行委員会と、全国登山の総合力で実施していく。

参加者が「自由に語り、学び、ふれあい交流」のある楽しさを満喫できる集会として企画した。実行委員はじめ、理事・役員は総力をあげて集会日を迎えたいと考えているので、多くの方の参加をお願いしたい。

（久保典子／日本勤労者山岳連盟 副理事長）